

## 令和元年度 船員安全・労働環境取組大賞

受賞者：宮崎カーフェリー株式会社（宮崎県宮崎市）

取組の名称：暑さを「見える化」した熱中症対策

取組の概要：熱中症による労災事故が発生したことを受け、熱中症対策を見直し新たな取り組みを実施した。それまで、休憩や水分補給のタイミングは職長の個人的な感覚に委ねられていた。高温状態の中、個人の感覚で暑さに向き合うのではなく、数値化された「暑さ指数(WBGT)」の基準で判断することとした。また、注意喚起ポスターを刷新し、「爪チェック」「尿チェック」「防災アプリ」等による熱中症のチェック方法を示し、一人一人が自らチェックする楽しさと興味を持たせる工夫を加えた。

### 【具体的な取組の内容】

#### □ 暑さ指数に注目

作業時の休憩のタイミング、水分補給の時間については、職長（個人）の判断に委ねられていた。「暑い」といっても個人の感覚には当然差があり、感覚で暑さに向き合うのではなく、暑さを数値化したものを基準として判断することとし、暑さ指数（WBGT）に注目した。

NHK 防災アプリにて一日の暑さ指数を確認し、予想指数が高い時間帯は屋外作業を原則禁止とした。また、温度・湿度・暑さ指数等が一目で分かる「暑さ指数測定器」を導入し、実際に作業を行っている場所が今どのような状態なのかを測定することで、若年船員からベテラン船員まで全員で暑さ指数を共有し、炎天下で行う無理のある作業や我慢をしながらの作業を軽減することができた。



# □ 注意喚起ポスターの刷新

以前までは単に注意を喚起するだけのポスターであったが、一人一人が自主的に「試す」「確認する」という実践性を備えたポスターに刷新した。自身の健康診断結果に注視するように、熱中症についても「爪チェック」「尿チェック」等のチェック方法を開示し、まずは自らチェックする楽しさと興味を持ってもらい、自身の体調を自然とチェックするようになった。



## 【具体的な成果】

### □ 2019 年度からの新たな取り組み

#### ① 暑さ指数測定器の機関部への導入

機関室内は季節に関係なく常に高温状態にあり、熱中症と隣り合わせの環境にある。その職場環境で普段から作業をしている機関部乗組員は、休憩の取り方、作業時間の配分について熟知している。しかし常態化している中での感覚や個人の判断では、「熱中症を予防する」という観点が欠如してしまう恐れがある。単に暑さ指数を計測するだけでなく、暑さの現状を数値で確認し休憩の目安を可視化することを目的に導入した。

#### ② 荷役中の一斉休憩・水分補給の実施

以前までは、「荷役が落ち着いたタイミング、又は合間に個人で水分を取る」といったように、荷役中は各デッキの状況や個人の判断で水分補給をしていたが、現場指揮者の指示により一斉に休憩時間を設けることとした。これにより、若年船員や荷役協力会社作業員等、全員が確実に水分補給できる状況を作れるようになった。

各種熱中症対策を実施することにより、2019 年度は乗組員の熱中症発症を回避することができた。新たに取り組んだ対策以外にも、空調服（ファン付き作業服）の導入について現場乗組員から声が上がり検証を行い、又は作業時に独自に熱中症対策を実施する等、これまで熱中症に対して特に意見や反応は無かったが、昨年以降活発に議論されるようになった。これは熱中症の恐ろしさを真剣に受け止め、乗組員自身がその対策に取り組むようになった結果である。

引き続き、現場乗組員と協議を重ねながら熱中症対策に取り組んでいきたい。